



高松幸雄 議員

子ども医療費助成の拡大を

質問

市では、子ども医療費の無料化は平成22年4月より小学校6年生まで拡大された。それから4年が経過し、中学卒業までの拡大が必要と考えるが、本市としての考えは。

市民生活部長

子ども医療費の助成は子育て支援の柱であり、県内の多くで通院を中学卒業まで拡大している状況は承知している。しかし、保育サービス、児童館、子育て支援センターの充実など、総合的な子育て支援策のなかで検討していく



必要があると考える。

質問

あま市と稲沢市では26年4月1日診療分から自己負担分の3分の2が支給になった

市民生活部長

今後の財政状況などを見ながら考えていく。

が、市も段階的に拡大を考えたらどうか。

福祉有償運送制度の確立を

質問

要介護者、身体障がい者に対する十分な輸送サービスが確保できないと認められる場合に、実費の範囲内でNPO、公益法人、社会福祉法人などが家用自動車を使用し、会員に対して行うドア・ツー・ドアの個別輸送サービスを提供する福祉有償運送の利用状況は。

福祉部長

現在、登録者は5人、昨年1年間の利用回数は92回である。

質問

新たなNPO事業参入や、ボランティアの募集を市で考えては。

福祉部長

外出困難な方の足を確保することは大きな課題である。これからの外出支援の手段として考えていく。今後、新た

なNPO事業の参入に期待し、本市も働きかけをしていきたい。

質問

福祉有償運送、介護タクシー、福祉タクシーの違いが、わかりにくい。広報で違いを紹介することを考えては。

福祉部長

今後、わかりやすく紹介することを考えていく。

その他の質問

- ・婚活支援について
- ・商店街活性化について